

# 尾瀬ネットワーク通信

2001年2月10日 VOL.4, No.1(8)

尾瀬自然保護指導員ネットワーク



指導員養成講座の受講生 桜枝岐村ミニ尾瀬公園にて

二十一世紀も尾瀬が尾瀬で  
あり続けられるように

21世紀を迎えて、ネットワークの指導員の皆様には益々ご健勝で活躍のものと存じます。

今年いただいた年賀状に「ネットワークがスタートして、5年目になるのですね」とあり、改めて月日の立つのが早いのに驚かされました。代表幹事を命じられてから、4歳も馬齢を重ねてしまったわけですが、その間、何をしたかと自問してみると、内心じくじたるものがあり、新年早々、深く反省させられました。

昨年はネットワークにとって、エポックメイキングなことについても過言ではない年でした。

まず、8月に「第1回指導員養成講座」を実施し、九名の受講生が三泊四日の

ハードな室内およびフィールドでの講座スケジュールに耐え、無事に修了されました。平均年齢二十五歳で、過半数を占める私のような高齢メンバーにとっては、子供か孫のようなフレッシュな仲間が誕生しました。

心よく講師を引き受けていただいた永島さんと磯部さん、桜枝岐村の元村長・星一広氏、そして戸倉の「一仙」さん、桜枝岐村の「ひのき屋」さんに厚くお礼申し上げます。

発足当初からの会津側入山指導に加え、戸倉側での入山指導も試みに開始しました。担当は山本さんで、初年度とあってまだ参加者数には恵まれませんでしたが、回を重ねることに参加希望者も増えるのでは、と

期待しております。

ところで、尾瀬への入山者数の減少もあつてか、このところ首をかしげたくならないような動きが散見されま

まず、小屋組合では、これまで設けてきた「風呂なしデー」を廃止して、いつでもハイカーが入浴できるようにするそうです。

もつとびっくりなのは、見晴など小屋が集まっているエリアにアンテナを立てて、入山者が携帯電話を使えるようにしようという案も出ています。木道を歩きながら「あたし、尾瀬にいるの。お花がきれい。こんど一緒に来ましようよ」なんていう入山者が出てきそうです。

皮張りのソファにグラブドピアノ、そしておいしいコーヒーという小屋(?)も出現しました。

21世紀も、尾瀬が尾瀬で

あり続けるためには何をすればいいか、何ができるのか。幹事会におまかせではなく、一人一人が考えて欲しいものです。

(高橋 喬)

### 総会のお知らせ

日時 二〇〇一年三月

二四日(土)

一四時～一七時

場所 JR大宮駅西口

徒歩5分

「ソニックシティ」

7階703号室

総会に併せて「自然保護に関する講演会」も予定しています。現在講師を人選中です。

また、総会終了後に「懇親会」(会費制、参加自由)も予定しています。

後日、会員宛に案内状を送りますので、万障お繰り合わせのうえご出席くださいますようお願いいたします。

## 尾瀬自然保護指導員

### 養成講座を開講

8名の新しい指導員が誕生

担当幹事 永島 勲

二年越しの準備を経て、二〇〇〇年八月二十七日に三泊四日の第一回指導員養成講座が計画通り終了いたしました。宿舎の一仙さん・ひのき屋さん並びに会員各位のご協力に対し深く感謝申し上げます。山岳雑誌「岳人」及び「山と溪谷」の六・七月号に講座開催の案内が掲載されると、大勢の方から問い合わせを頂き、最終的には女性六名を含む九名の受講生の参加を得ることが出来ました。

四日間とも天候に恵まれ、夕食後の室内研修やヤマメ平・尾瀬ヶ原・尾瀬沼等、

長時間の現地研修など、極めてハードなスケジュール



下田代にて

にもかかわらず、受講生には真剣かつ熱心に勉強して頂きました。高橋代表は三日目の大江津原から急流し、講師として解説に加わって頂きました。

また、桜枝岐村では元村

長の星一広様に、村の歴史や文化に関するご講演と史跡や博物館等のご案内もして頂き、厳しい自然の中で暮らしてきた村の様子を学ぶことが出来ました。星様には紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

この講座では、尾瀬の自然や尾瀬の自然保護に関する基礎の一部を学んだに過ぎません。これを契機に、各受講生がネットワークの実践活動等を通じて自主的に自己研鑽に努めることにより、一人前の尾瀬自然保護指導員に育っていくものと確信しています。

既に八名の方が入会し、秋期の福島側の入山者指導では五名の方がバス添乗解説などの活動をして頂きました。受講生の平均年齢は三十五歳と若く、ネットワークに新たな若いパワーが誕生して、活動の充実と組織の活性化に繋がるものとして大変心強く思っております。新しく自然保護指導員

となられた皆様の今後の活躍を大いに期待しております。

西山伸一

(2日目)

アヤマメ平・尾瀬ヶ原 鳩待峠からしばらく山道を歩くと突然、横田代(傾斜湿原)に出る。視界が三六〇度になり、薄暗い山道から急に明るい空間の湿原になるので、とてもびっくりした。後方には景鶴山・至仏山がくつきり見え、素晴らしい晴天なので我々を歓迎でもしているように見えた。

しばらくして、待ちに待った「アヤマメ平」に到着した。私も昨年・一昨年と春機山景観保全ボランティア活動に参加したので、ここの植生復元(池塘)にはとても関心があった。かつてここでバレーボールなどをしたの



中田代 龍宮出口にて

で植物が全滅してしまったが、東電をはじめ関係者の努力で、少しずつではあるが、元に戻っている様子をみて安心しました。童宮では「抛水林」の説

明を受け、中田代・上田代で「池塘・浮島」「湿原の植物」等を学び、山の鼻では植物研究見本園を見学しました。今日のスタートだった鳩待峠にやっ

と着いた時はとても嬉しかったです。

(3日目) 尾瀬沼

宿舎の一仙に着き、休憩・入浴・夕食そして室内研修と続いたが、尾瀬の素晴らしさを見て感激していたので、体は少し疲れていたが頭はハッキリしていた。今日は大清水から三平峠を越えて尾瀬沼へ。峠手前で左の山道に入ると排水トンネルから大量の水が流れ落ちていた。三平下で取水口を、沼尻では水門を見学して、「分水問題」を学びました。沼一周は思っていたより時間がかかり、少しきつかった。東岸のビジターセンター付近では焼き鳥やビールを売っている店があるのに驚く。大江湿原は水があまりなく、このままで良いのかと疑問に思った。「ヤナギランの丘」で平野家三代の墓を見学、国立公園の中にお墓があるのでびっくりしたが、尾瀬の自然を命がけで守った人達なので、しょうがないのでしょうか。大江湿原では高橋代表が我々

を迎えてくれました。植物の話を楽しく聞きながらいつの間にか沼山峠展望台に着いた。ここから見る尾瀬沼も素晴らしく、尾瀬の自然を後世に残すために頑張ろうと、一人勝手に思いました。

(注)紙面スペースの関係で西山さんの原稿からその一部を抜粋したものです。

関口智恵子

昨年八月の「尾瀬自然保護指導員講座」で、晴れてネットワークの一員になれた事を大変嬉しく思っています。しかし、未熟で実践力にはなれないなというのが十月のバス添乗に参加したときの感想です。

バスに乗せていただき、尾瀬に向かう一般の方と同じように話しに聞き入りました。それぞれの方が自分

の言葉で、興味深い話をしてくださいました。二十分の乗車時間に合わせ、天気や景色によつて話を組み立てる様子にとても感心してしまいました。自分だつたら何を話せばいいのかと、ちよつと考え込んでしまいました。資料も見せていただきましたが、熱心に勉強された跡があり、自分の勉強不足を痛感し、頭の下がる思いでした。

今後は身近な環境のことにももつと関心を持ち、自分に来ることを考え、実行していきたいと思えます。尾瀬ではこれからもいろいろな経験(勉強)をして、自分なりに成長出来たらと思えます。あまり深く考えずに、この講習に参加してしまつた私ですが、この宝物を子供達にも残せるようお願い、そのためにどうしたらいいのかを常に考え行動できたら、今後進むべき道が自然と見えてくるような気がしています。

### 指導員養成講座の概要

1. 講座名 尾瀬自然保護指導員養成講座(第1回)
2. 実施日 2000年8月24日(木)~8月27日(日) 3泊4日
3. 目的 尾瀬自然保護指導員として必要な基礎的知識(尾瀬の自然・自然保護・歴史等)を実地研修及び室内研修にて習得します。
4. 場所 群馬県片品村及び福島県桧枝岐村鳩待峠、アヤメ平、尾瀬ヶ原、三平峠、尾瀬沼、沼尻、大江湿原、沼山峠など
5. 受講者 9名(男子3名、女子6名)=石黒修一(栃木県)、西山伸一(神奈川県)、関口智恵子(東京都)、中村成美(神奈川県)、森屋弘一(埼玉県)、加々美はるか(千葉県)、関口祥子(神奈川県)、長島睦世(静岡県)、貝田杏子(埼玉県)
6. 修了証 全課程を修了した方には本会の修了証・ネームプレート・ワッペンを授与します。修了者は本会会員となり尾瀬自然保護指導員として活躍して頂きます。
7. 講師 永島 勲、磯部 義孝(本会幹事)
8. 宿舎 片品村戸倉「一仙」及び桧枝岐村上ノ台「ひのき屋」
9. 費用 35,000円(宿泊費・食費・現地での交通費・テキスト代・保険料など)

## 二〇〇〇年度活動報告

定着した入山指導

会津バスの添乗に

69名参加

九七年六月にネットワー  
クとして初めての会津バス  
添乗解説が始まってから、  
すでに四年が過ぎました。  
その間、二十二回、述べ三  
百六十六名もの参加者の協  
力と、会津バス田島営業所  
の歴代所長をはじめ職員、  
乗務員の皆様のご理解があつ  
て、継続することが出来ま  
した。

福島側の活動は、旧尾瀬  
の自然を守る会当時、一年  
間、計八回位の添乗解説の  
実績が認められ、御池、沼  
山間をバス賃無料で添乗さ  
せてもらえるよつになりま  
した。それにより添乗解説  
の回数が多くなり、今では  
一人で一日に六回(六台)も

の解説を行うベテランもい  
ます。交通規制の適正化に  
よりバスの運行時間が二十  
分と短くなり、限られた時  
間での解説に苦勞しますが  
それぞれの持ち味を生かし  
て解説を行っています。

また、昨年は第一回養成  
講座の終了生のうちで五回  
目の活動に一名、六回目の  
活動に参加した方が四人も  
いました。ネットワーク発  
足以来の朗報です。そんな  
こともあり、昨年の添乗解  
説参加者は六回、延べ六十  
九人と大盛況のうちに無事  
終了いたしました。今年も  
計六回の入山指導(添乗解  
説)を計画しています。お  
誘い合わせのついでに参加  
をお願いします。

なお、日程は総会で決定  
後にご案内いたします。  
(福島県側担当・磯部義孝)

## 群馬県側

### 入山指導について

尾瀬自然保護指導員ネッ  
トワークとして初めて計画  
された群馬側入山指導は二  
〇〇〇年六月十八日  
七月十四、十六日、九月十  
五、十七日、十月六、八日  
の四回を二月の幹事会で決  
定し、四月中旬以降、尾瀬  
ネットワークの会員にご案  
内申し上げたところ、参加  
申し込みは六月二名、七月  
四名、九月四名、十月二名  
であったが、六月は参加二  
名(角田、山本)の予定が直  
前に角田氏が体調不良の連  
絡で中止する。七月は3名  
(角田、清水、山本)の参加  
により実施する。

コースは鳩待峠入山口お  
よび至仏山登山口での入山  
指導と山の鼻ビジターセン  
ター前、尾瀬ヶ原の各休憩  
所ポイント、牛首三つ又ポ  
イント等、多くの入山者の  
前で尾瀬の大切さや自然保  
護のあり方等を解説する。

第3回参加者「島上、坂  
本、深山、山本。九月十五  
日、全員揃ったところで群  
馬側の尾瀬の現状と入山指  
導方法について報告する。

鳩待峠入山口、山の鼻地区  
(自然研究園含む)、尾瀬ヶ  
原上田代および牛首三つ又  
休憩所ポイントにおいて、  
尾瀬についての自然解説と  
自然保護等を入山者に訴え  
ることとする。

### まとめ

二〇〇〇年になって初め  
て群馬側入山指導が計画さ  
れたが、多少の準備不足も  
あり、参加人員3名以上と  
限定された中で、4回中2  
回、入山指導が実施できた  
ことは良かったと思つ。た  
だ反省点も多い。

? 定点自然解説では人が  
集まらず、自然解説実  
施の拠点を作る必要が  
ある。

? 福島側の指導要領その  
ままでは群馬側の定点  
解説にはならない。福

島側の指導要領をもと  
に群馬側にあつた解説  
文を作る必要がある。

? 尾瀬自然保護指導員ネッ  
トワークの知名度が低  
いが、参加希望の人が  
いる限り、毎年1、2  
回程度は実施すべきで  
ある。尾瀬の自然を守  
る気持ちはだれも同じ。

―(案)7月・9月  
? 場合によっては参加人  
員2名以下でも良しと  
してほしい。

? 地球環境にやさしいア  
イドリングストップ運  
動も活動の中に取り入  
れていきたい。

(群馬県側担当・山本誠剛)

### 至仏山「東面登山道 実態調査」について

至仏山東面登山道は、植  
生の保護・登山道の整備・  
植生の復元等の理由で、一  
九八九年より閉鎖されてい  
ましたが、一九九七年八月  
一日に9年ぶりに再開され

ました。

ネットワークでは、群馬側の活動として毎年夏に「至仏山東面登山道実態調査」を行ない、再開における問題点を指摘してきま

た。二〇〇〇年度の調査は雷による集中豪雨の中の実施となりました。東面登山道は急傾斜地に加えてと蛇紋岩という特殊な条件下にあり、雨による土壌の流失が如何に激しいか、自然の厳しさを思い知らされました。あらためて流失した土壌の回復と流失防止策を十分にとらないと植生復元は極めて困難と考えさせられた調査でした。この様な状況から一九九七年の登山道再開は、入山者を迎え入れることを最優先し、植生の保護及び復元を軽視したものと云わざるを得ないと強く感じていま

す。急傾斜地で裸地化した所は、岩石の露出し年々多くなっており、抜本的な対策として登山道再開と一刻も早い植生復元への本格的な取り組みを強く訴えた

い。私達（入山者や全ての関係者は、この貴重な尾瀬の自然を後世に伝える義務と責任があります。「特別保護地区」並びに「特別天然記念物」の指定を受けている貴重な尾瀬の自然を、これ以上荒廃させてはならない。尾瀬の生態系を保護することを最優先にした抜本的な施策（マイカー規制の強化、登山道閉鎖、入山規制等）が、一刻も早く着実に実施されるよう願ってやみません。

(担当幹事・永島 勲)

### 全労済などから

### 助成金

二〇〇〇年度も緑の地球防衛基金より二八万六三三〇円(指導員養成講座講師宿泊費・交通費および至仏山東面道調査費)の助成金をいただきました。

また、全労済より初めて助成金として六五万円を認めていただきました。助成対象は入山指導費用の一部補助に四五万円、リーフレット制作費(四月印刷予定)に二〇万円です。

このほか、全修協(全国修学旅行研究協会)より尾瀬ガイド料として六万円(一回分)を頂戴しました。いずれもネットワークにとって貴重な活動資金として、大切に使用させていただきました。紙上より厚くお礼申し上げます。

(牛木 一朗)

### 尾瀬ネット

### メーリングリスト

### アドレスを変更

諸般の事情により尾瀬ネットのメーリングリストのメールアドレスが

に変更になりました。メーリングリストに参加希望される方を随時受け付けております。

登録申し込みは宛てに参加依頼のメールをお送りください。

(若松 真)

### 事務局電話番号

### 変更の知らせ

事務局の電話番号が左記のように変更となりましたのでご連絡いたします。

03-3581-0321

### 原稿募集

「ネットワーク通信」を年四回、定期発行します。皆さんの投稿をお待ちして

おります。事務局宛に送ってください。

一行十二字詰め、ワープロ、手書き、いずれでも結構です。短信はハガキでも可。封書の場合、「原稿」と朱書きしてください。

原稿に付随した写真掲載を希望される方はできる限りネガを一同封ください。ネガは後日返却いたします。

電子メールでの投稿も歓迎いたします。電子メールでの投稿先は左記のメールアドレスで受け付けます。

(若松 真)

尾瀬自然保護指導員 ネットワーク 〒100-0014 東京都千代田区永田町 一の一七の五の二〇三 (株)SEC内 電話 03-3581-0321 FAX 03-3581-2178 代表幹事 高橋 喬 事務局長 椎名 宏子 編集幹事 若松 真